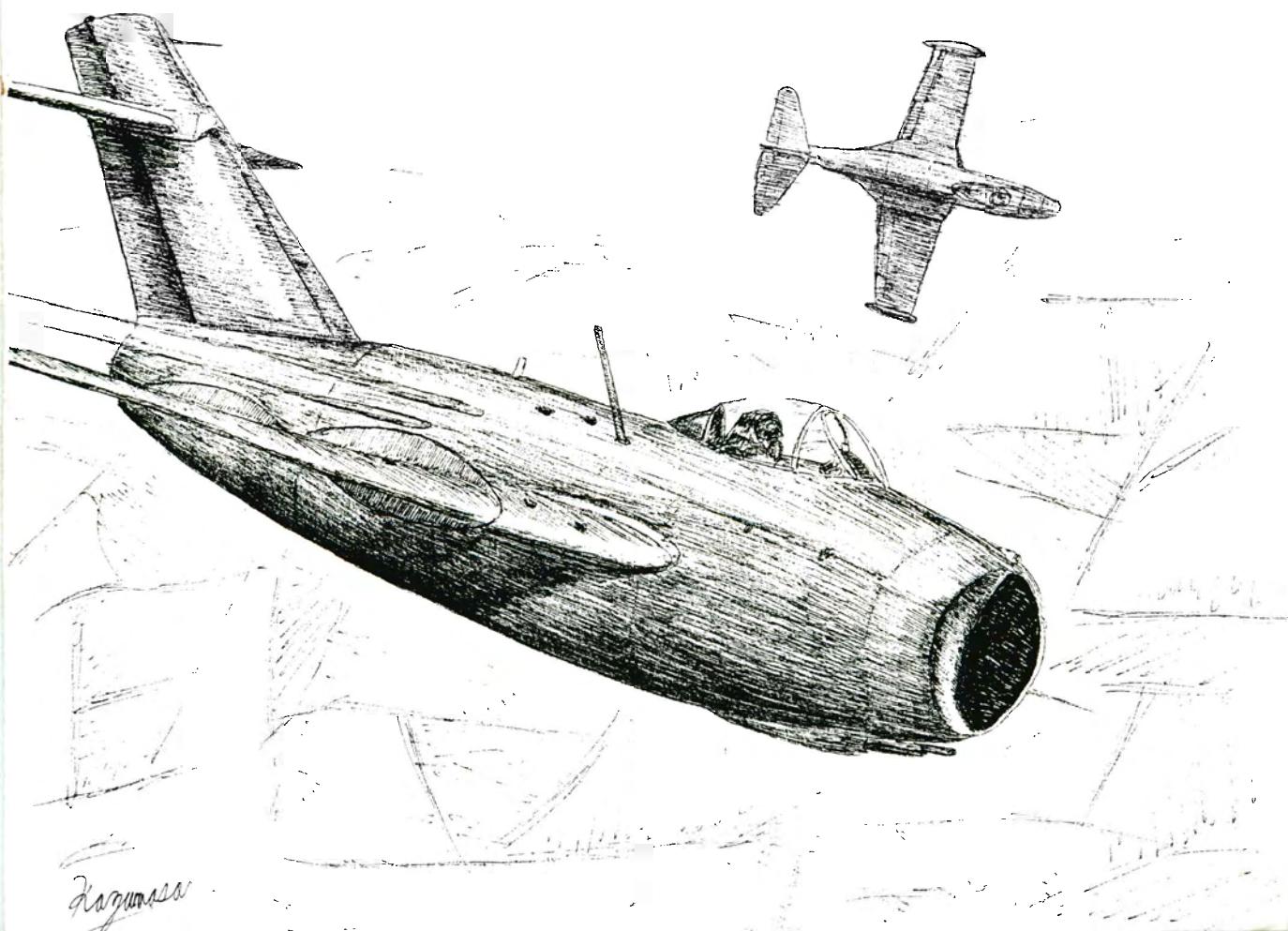


大 河 空 戰 P B M

SONIC DIVER

第1回結果発表
(ゲーム時間: 1958年4月)
シリーズ通算: 第24回



Dynamite

☆戦果報告

ガルマン大佐：ご苦労だった。作戦開始後二週間で敵は撤退を開始した。これを攻撃するのは国際世論への配慮もあって控えたが、それまでの戦果はやや不満が残ったな。

それから、今回は機体設定係のミスでどの部隊もナットばかりだったが、対応策が発表されたので最大限活用してくれとねえ。以上だ。

ウンケル中佐：設定上のミスで人数が集まらず、予定通りの作戦がとれなかつた。それでも戦果がいいのは、やはり本隊が先陣を切つたからだろ。損失が一切ないあたりはさすがベテランといったところか？ともかく、今後もこの調子で頑張ってくれ。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	S	D	B	S	S	P	O	P	階級	状態	機体	
岬当麻	0 1	G nt	Shoot	ブルーベイカー	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	9 9	G nt		相原一葉	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	E 1	F 9 F	Z Z G	ルー・ルカ	1	0	4	5	1	4	大尉	生還	無傷			
	E 1	F 9 F	シルフ	ディードリット	3	0	4	5	1	4	大尉	生還	無傷			
篠原崇	1 2	G nt	傭兵隊長	ワレンシュタイン	0	0	3	2	2	准尉	生還	無傷				
	1 2	G nt	坊主ミネルヴァ	クリスティナ=アレキサン德拉	0	0	4	2	2	准尉	生還	無傷				
	1 2	G nt	きゅべれい♡	エルピー・ブル	2	0	3	7	1	2	中尉	生還	無傷			
	1 2	F 8 6	青い彗星	エル=プライス	2	0	9	0	2	0	少佐	生還	無傷			
	1 2	G nt	翠玉女伯爵	レジーナ・プライス	0	0	2	4	1	0	少尉	生還	無傷			
	1 2	G nt	ファルツ万歳！	アンスフェルト	0	0	2	2	2	准尉	生還	無傷				
	1 2	G nt	妖精の女王	ベルフィービー	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	1 2	G nt	メカキング	サンソン	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	1 2	G nt	カトリーヌ	グラントディス	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	1 2	G nt	グラタン	ハンソン	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
井村和正	2 3	疾風	—	フォルスター	0	2	5	1	1	准尉	生還	無傷				
	2 3	1 1 9	K S	ニルス	0	2	5	1	1	准尉	生還	無傷				
	9 9	G nt	—	ホームート	0	0	3	2	2	准尉	生還	無傷				
	9 9	2 6 2	見敵必殺	メルダース	0	0	5	7	1	6	大尉	生還	無傷			
日高耕	2 1	G nt	グラマリエ	ブロム・オベリン	0	0	3	2	2	准尉	生還	無傷				
	2 1	G nt	シュヴルト	チュアン・マグガイア	0	0	3	2	2	准尉	生還	無傷				
	2 1	G nt	ダンクルハイン・トレフェン	ハイナー・ミュラー	0	0	4	2	2	准尉	生還	無傷				
	2 2	G nt	テア・ザウベラー・トレフェン	セディュー・ボルジア	0	0	7	4	4	准尉	生還	無傷				
	2 2	G nt	フェス	グウェンディロン	0	0	6	2	2	准尉	生還	無傷				
	2 2	J 3 2	ライ・グロース・フォルケ	ウォルフガング・レオンハルト	0	0	1	2	4	少尉	生還	無傷				
				ロッド・ギャロウグス			6	2	2	准尉						
木村博昭	0 1	零式戦	ハッカー	セシル・ヒューストン	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	0 1	零式戦	モスク	ルフェルーク・ハミーラ	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	0 2	零式戦	死神	ロイヤー・ナスペル	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	0 3	零式戦	ミサイル・ショット	ホイットニヒ・ハルム	1	3	8	1	1	准尉	生還	少破				
	1 1	疾風	ピューリタン	ホール・オフレイド	0	2	5	1	1	准尉	生還	無傷				
	1 3	零式戦	クラッカー	トレヴァー・テンペラ	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	1 3	疾風	ソレミオ	カルナーカ・ホルン	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	2 1	1 1 9	メガトンパンチ	西島義人	0	5	1	1	1	少尉	生還	無傷				
菅原忠幸	1 3	G nt	皇帝	カール・アルベルト	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	1 3	G nt	華	ロン・シャオレン	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷				
	1 3	零式戦	ゼロ	ジョン・スミス	0	0	1	1	1	准尉	軽傷	中破				
	1 3	疾風	神風	ハヤテ・ナカツガワ	0	0	1	1	1	准尉	軽傷	大破				
	1 3	F 8 6	昇龍	リュウ・シキフネ	2	0	12	3	2	中佐	生還	無傷				
	2 3	A D	人狼	キリーク・シマー	0	2	5	1	1	中尉	生還	無傷				

	2 3	A D	ファイア・アロー	フィラデルフィア・カーマイン	0	0	3 3	8	中尉生還無傷
	2 3	F 9 F	フロンティア・スピリット	ウイリアム・ジェームス	0	0	4 3	9	中尉生還無傷
	2 3	S v n	王虎	ゲン・ホー・キム ホー・ヒンメイ	0	1	2 8	5	中尉生還無傷
						2 0	4	少尉	
遠藤誠	0 1	G n t	Zart Wind	望月 浩二	0	0	4	2	准尉生還無傷
	0 1	零式戦	Violett Vogel	五島 三四郎	0	0	4	2	准尉軽傷撃墜
	1 1	G n t	Zauber	リュウ・ウェイ	0	0	4	2	准尉生還無傷
	1 1	零式戦	鶴	楠木 京一	0	0	3	2	准尉生還無傷
	2 1	1 1 9	ペアトリー・チエ	マクレーン・シーカー	0	5	1 9	3	少尉生還無傷
	2 1	1 1 9	メリーセブン II	ジョン・シェンカー	1	3	1 3	2	少尉生還無傷
	E 3	零式戦	ブラック・アロー	マーチン・ルーサー	0	0	1	1	准尉生還無傷
	E 3	零式戦	レセモーア	アンス・ブレリアン	0	0	3	2	准尉生還無傷
赤木崇敏	1 1	G n t	ムーンライト・セレナーデ	アウグスト・シュレーゲル	0	0	3	2	准尉生還無傷
	1 1	G n t	ムーンライト・セレナーデ	アルフレッド・ティルピツィ	0	0	2	2	准尉生還無傷
	1 1	G n t	ムーンライト・セレナーデ	ウェルナー・ブラウン	0	0	3	2	准尉生還無傷
	1 1	G n t	ムーンライト・セレナーデ	オットー・ブルンフェルス	0	0	3	2	准尉生還無傷
	1 1	G n t	ムーンライト・セレナーデ	カール・ウェーバー	1	0	3	2	准尉生還無傷
	1 1	G n t	ムーンライト・セレナーデ	カール・シュレーゲル	0	0	3	2	准尉生還無傷
	1 1	G n t	ムーンライト・セレナーデ	フレデリック・ヘーゲル	0	0	2	2	准尉生還無傷
	1 1	G n t	ムーンライト・セレナーデ	ルドルフ・ヒルファー＝ディング	0	0	2	2	准尉生還無傷
炭谷英範	0 1	G n t	イリス	木下 藤吉郎	0	0	1	1	准尉生還無傷
	0 1	G n t	エルトリニアス	神無月 京子	0	0	1	1	准尉生還無傷
	0 1	G n t	ソルト	田沼 沖次	0	0	1	1	准尉生還無傷
	0 1	1 1 9	アンリ	片山 右京					中尉戦死
	0 1	1 1 9	エリン	沢田 翔					中尉戦死
	0 1	1 1 9	カリン	秋乃 茉利					中尉戦死
戸島基貴	0 1	G n t	シュターレック	ゲーブルト・ブリュッヒャー	2	0	1 9	5	少尉生還無傷
	0 1	G n t	ブルー・ホーネットD	リクター・ラディアス	1	0	1 4	7	少尉生還無傷
	2 1	A D	ジエノライト	タル＝メルデュア	0	3	2 9	5	中尉生還少破
	2 1	A D	ナイバート	タル＝アルダリオン	0	2	1 4	2	少尉生還無傷
	2 1	A D	ハーズ	タル＝ミニトウア	0	2	2 7	5	中尉生還無傷
	2 1	A D	バリオス	タル＝アマンティル	0	3	2 9	5	中尉生還無傷
	E 2	零式戦	シェーンブルク	アルフレート・ハルバハ	0	0	1 4	5	少尉軽傷中破
	E 3	A D	トレオース	パティ			失	格	
	E 3	A D	リブロース	ラビィ			失	格	
	E 4	A D	エリトロース	キャティ			失	格	
林孝始	0 1	G n t	Black Annis	アーサー・ラングレン	0	0	1	1	准尉生還無傷
	0 1	G n t	TESTAROSSA	アンドレア・デ・ガリバルディ	0	0	1	1	准尉生還無傷
	0 1	G b n S E I R E N		ルーフ・ラングレン	1	0	6 0	1 3	大尉生還無傷
	1 1	1 5 2	Mephistopheles	クレイ・コリンズ		2	2	5	少尉
	1 2	1 0 9	Lucifer	ラルフ・ショナイダー	1	0	2	1	准尉生還無傷
	2 1	1 1 9	雷火	ヨッヘン・ガーラント	1	0	2	1	准尉生還無傷
	2 1	A D	STORMY BLADE	カオル・ヤギサワ	0	2	5	1	准尉生還少破
	E 2	零式戦	天雷	ジル・グラスランナー	0	2	1 8	4	少尉生還無傷
	E 2	F H	Kerberos	リョウジ・ホリコシ	0	0	1	1	准尉軽傷中破
	E 3	A 2 D	WOLF FANG	マーティン・オルズ	0	0	1	1	准尉生還無傷
				デーモン・ブラッドショー	0	0	2 9	7	中尉生還無傷
秋信敏男	0 2	G n t	—	J. E. Warnock	1	0	4 9	2 0	大尉生還無傷
	1 2	G n t	—	K. Penn	0	0	4 7	1 2	大尉生還無傷
	2 2	1 1 9	—	S. Venturs	0	3	1 0	2	少尉生還無傷

22	AD	-	田島 昌治	0	34210	中尉生還少破
----	----	---	-------	---	-------	--------

☆申請機の略号

262…Me 262A-1/Jabo 152…Ta 152H-1
109…Bf 109K-14 FH…FH-1ファントム
A2D…A2D-1スカイシャーク

☆申請機の価格

152…400zg 109…450zg FH…1600zg A2D…1000zg

☆申請機データ修正

152…755km/時 FH…搭載力なし

P C リプレイ

作戦発動初日。

空母の部隊に出動が下令されていざ飛び立つてみると、前線で彼らを迎えたものは対空砲の黒煙ではなく、戦闘機だった。ぎりぎりのところで敵航空部隊の増援が間にあったのである。こちらの機数はわずか10機たらず、しかもほとんどが零式戦である。正規軍は同行していない。奇襲効果を狙って強行されたこの作戦飛行も、これで中止を余儀なくされた。即時帰艦が決まり、以後この部隊は上空直掩に専念することになった。

「敵拠点の航空勢力に変化あり」――

この情報で、第1波の出撃は予定より少々繰り上げられた。なにしろ、敵は一度飛行機を上げている。ということは、逆に今行けば燃料補給中を叩くことができる勘定である。まして、敵の手持ち機体に航続時間の長いものはそうない。こちらもナットがほとんどである以上、渡洋作戦はぎりぎり一杯のところだが、かなりこちらに有利なレートの賭けと言えるだろう。

まず前衛部隊の70飛戦第一中隊が離陸していった。ベテランのルーフ・ラングレンがジャベリンを使う以外はほとんどナットか零式戦。3機のキ119もいた。レシプロとジェットの巡航速度の違いはいかんともしがたく、ナットが先行した後に零式戦が飛び込むことになった。この方が損害を減らすこともできる。

…が、運悪く敵機は補給のため着陸してしまっていた。仕方が無いので敵状確認を兼ねて機銃掃射に移る。しかしそれも空しく、何ら戦果を上げずに終わってしまった。…そして彼らが燃料の限界で引き上げ、レシプロ隊に引き継ごうとしたころ、敵機が離陸を開始した。こちらのナットに引き返して応戦するだけの燃料はない。それでも経験のあるものたちは、一矢報いることも出来た。また、新兵たちも速度で振り切った。

惨めなのはそこへ飛び込んでしまったレシプロ機隊である。零式戦はともかく、キ119は基本的に攻撃機である以上、その機動には限界がある。運悪く、敵はほとんどがF-80で、ほとんどケンカにならなかった。古いとは言え、Fナンバーはダテではない。見事に門前払いを喰って前哨戦は終わった。

引き続いて第1波攻撃隊がやってきた。こちらはほとんどがレシプロ機からなっている。敵が補給で引き返し始めたところへ到着したわけで、変なところで読みが当たった形だ。見事に空襲は成功した。残念ながらナットで爆撃を行ったものはその高速が仇になって命中弾を得られなかつたが、正規軍による攻撃と合わせて基地機能は大混乱に陥つた。

しかし滑走路は無傷のまま残つた。イエール軍が撤退した後こちらの前進基地として使用する必要があつたため、無闇に傷つけるわけにもいかなかつたのだ。また、敵に退路を与えるという意味合いも与えていた。完全に包囲殲滅してしまつては、後々国際世論が必要になつたとき、不利になる。第2波、第3波と続いたこちらの攻撃も、同様に滑走路だけは外した「奇妙な」攻撃になつた。その後イエール軍が撤退を始めた2週間後まで、この状態は続いた。

☆戦果報告

オイラー大佐：敵は優勢な物量を背景に、手早く島の包囲を完了した。我々傭兵隊が到着したのが、ぎりぎり間にあった程度だ。そんな事情もからんで、半月で撤退が開始された。しかし、歴史的に見ればタウイタウイはわがイエールの領土である。今後も本土の基地から、侵略者であるイザベリア軍への制裁措置を取り続けることになるだろう。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	SD	BS	SP	OP	階級	状態	機体
笠原和子	9 0	M t r	アルコール・ブレザースco.	W. モスコミール	0	0	3	2	准尉	生還少破	
	9 0	M t r	アルコール・ブレザースco.	レミー・マルタン	0	0	8	4	准尉	生還中破	
	2 1	A U	OLD BIRD	パー・ブラウン	0	0	4	4	准尉	生還中破	
	9 3	Hur	BRITISH	C. モカ	0	7	15	1	少尉	生還無傷	
正宗征士	9 0	F 8 0	愛しのマージ	リチャード・アイラ・ボング					大尉	戦死	
	9 0	KCREA BOMBER		イー・オーサン	0	0	1	1	准尉	生還無傷	
	9 0	KCREA BOMBER		キム・クンサン	0	0	1	1	准尉	生還少破	
	9 0	KCREA BOMBER		リー・ウルサン	0	0	1	1	准尉	軽傷少破	
吉楽征二	9 0	F 8 0	—	川柳 歌麿					中尉	戦死	
	2 2	S u 9	—	I.I. イクノフスキ					中尉	戦死	
	9 3	A U	ボンジュール！	ラース・レダ	0	5	11	1	少尉	生還無傷	
	9 3	A U	—	メル・ギブソン	0	3	7	1	准尉	生還少破	
下永弘典	9 0	M t r	エリザベス	レビン・スチュアート	0	0	1	1	准尉	生還無傷	
	1 1	M t r	クリームヒルト	エルンスト・バーリンガー	0	0	1	1	准尉	生還無傷	
	1 1	S f r	クラウス	アレクセイ・ミハイロフ	0	0	1	1	准尉	生還無傷	
	2 1	F 8 0	ふうま	六道正義					中尉	戦死	
	2 1	A U	ユリウス	レオニード・ユースポフ	0	0	1	1	准尉	生還無傷	
	9 3	A U	カトリーヌ	ユーリイ・ロマノフ	0	1	3	1	准尉	生還少破	
山田国見	2 3	F 8 0	Sniper	グレゴール・ライシュ	0	2	12	2	少尉	生還無傷	
	2 3	A U	Basilisk	ウォルター・スコット	0	0	4	2	准尉	生還少破	
	2 3	B 2 6	Ghost Mk II	キャロル・グラック	0	2	17	3	少尉	生還無傷	
				ジェラルド・グラウビッシュ			6	2	准尉		
				ニコラス・ワイスマン			10	2	少尉		
	2 3	B 2 6	Vampire	オマール・ハイム	0	0	12	2	少尉	生還中破	
				トーマス・アクイナス			8	2	准尉		
				ジョン・ホワイトハースト							
	9 3	A U	Wraith	アレクサンダー・クレメンス	0	2	5	1	准尉	生還無傷	
	9 3	B 2 6	Awkwardness II	カール・ドルス	0	5	26	4	中尉	生還無傷	
				イエスター・ペルリング			14	2	少尉		
永山真時	9 0	O g n	ウェディング・スレイヤー	カーテローゼ・クロイツェル					大尉	戦死	
	9 0	F 8 0	ブルア・ヴ・モーナード	ルーン・カインマイゼル					中尉	戦死	
	9 0	F 8 0	テジ・ドアー テ	バルカン・シーリカ	0	0	4	2	准尉	生還無傷	
	1 2	F 8 0	カグラ・ルーキン	スティン・ナイン	0	0	1	1	准尉	生還無傷	
	1 2	F 8 0	ギルダル・ムーンナル	カイザーン・テオ・ジャイカ	0	0	4	2	准尉	生還無傷	
	1 2	F 8 0	リーナ・ドアーテ	テルバル・モン・クレスト	0	0	1	1	准尉	生還無傷	
	2 3	A U	ズイエン・マル・ゾーラ	ナール・アリイ・ガウディ	0	0	1	1	准尉	生還無傷	
	9 3	A U	アビ・エル・ドアーテ	デギル・ニカーン	0	3	12	2	少尉	生還無傷	
	9 3	A U	ゴーラ・オーム	ゴナル・バティト・メールバーテン	0	4	9	1	准尉	生還無傷	
	9 3	A U	ムーン・ドアーテ	ショマン・クリーニュ	0	3	14	2	少尉	生還無傷	
堀尾章太郎	9 3	F 8 0	—	イヴァナンス	0	1	3	1	准尉	生還無傷	
	9 3	F 8 0	—	ソルノック	0	0	1	1	准尉	生還少破	

	9 3	A U	—	ジャックモンド	0	3	7	1	准尉	軽傷	中破	
	9 3	A U	—	ランドルフ	0	4	9	1	准尉	生還	無傷	
栗原大輔	9 0	F 8 0	ホットロッド	セデル・スリート	0	0	1	1	准尉	生還	少破	
	9 0	M 1 7	バラライカ	ロバート・レーン	3	0	110	1	9	中佐	生還	無傷
	1 1	S f r	ハーフナー	ヘルムート・ワルヒャ	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
	1 2	S f r	カンタベリー	ショーン・ケンプ	0	0	1	1	准尉	生還	撃墜	
	1 3	S f r	ビ・バップ	ダニー・マニング	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
	2 1	A D	ハンマーシャーク	レナード・L・スミス	0	3	112	1	8	中佐	生還	無傷
	2 2	I 2 8	ペリヤ	フランク・ゴードン ジェイク・E・リー	0	1	123	1	8	中佐	軽傷	少破
	2 3	A U	パストラール	アンガス・ヤング カール・マローン			3	1	准尉		中尉	戦死
	2 3	A U	マインカンプ	モーゼス・マローン	0	0	1	1	准尉	軽傷	中破	
	9 3	H u r	オシリス	アブデル・ナビ	0	5	1	1	少尉	生還	無傷	
勝本充司	1 2	F 8 0	カペリ	レンス・ドローム	1	0	2	1	准尉	生還	少破	
	1 2	F 8 0	パフェクト・ブルー	リーフル・ラミング	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
	2 2	A U	スイーパー	リドル・ダモイン	0	0	1	1	准尉	軽傷	中破	
古橋道生	9 0	F 8 0	—	エリスチャン・バイス	0	0	4	2	准尉	生還	無傷	
	9 0	F 8 0	フライヤーボール	レイナ・デルマン	0	0	8	2	准尉	軽傷	中破	
	1 3	F 8 0	—	ボリス・クラーク					中尉	戦死		
	1 3	F 9 F	DASH LANCE	アーク・ティピット	1	0	37	9	中尉	生還	無傷	
	1 3	M 1 5	青き鷲☆	ジョン・アンダーソン	1	0	41	9	中尉	生還	無傷	
	2 3	A U	—	アーウィン・クリステイン	0	0	6	2	准尉	軽傷	撃墜	
	2 3	A U	—	アリアーナ・ボビンスカヤ	0	0	3	2	准尉	重傷	撃墜	
	2 3	A U	はあとふるブラン	シャーマン・カーン	0	0	7	4	准尉	生還	無傷	
	9 3	S f r	—	エワード・サービセガー	0	3	9	2	准尉	生還	無傷	
	9 3	B 2 6	X Wing star	ローラ・バタネン ランハード・ミッチャエル エディ・サークル	0	5	27	9	中尉	生還	無傷	
	9 0	F 8 0	—	アレクセイ・ソロマーチン	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
村松雅和	9 0	B t r	—	S. タンカレー	1	0	75	1	3	少佐	生還	無傷
	1 3	F 8 0	—	W. ウェイトリー			22	4	少尉			
	1 3	F 8 0	—	J. フランクリン	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
	2 3	F 9 F	—	M. クーパー	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
	2 3	A U	—	陳 濟	0	1	65	1	2	大尉	生還	少破
	2 3	A U	—	K. ストナー	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
	2 3	A U	—	R. キンバリー					中尉	戦死		
	9 3	S f r	—	メアリー・スコット	0	3	7	1	准尉	生還	無傷	
	9 3	B 2 6	—	P. ヨハンソン	0	2	24	4	少尉	生還	少破	
	9 3	A D	—	B. ホウプ S. ラージェント マティーニ・オブライエン	0	5	97	2	1	准尉		
和田保繁	2 2	I 1 2	охотник	А. Николаевич Н. Павлович	0	0	1	1	准尉	軽傷	少破	
	9 3	F 8 0	—	アレイ・デュラン	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
曾根田成弘	9 3	F 8 0	—	デニス・ウォーレン	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	
	9 3	A U	—	アーウィン・ハンブリンク	0	3	7	1	准尉	生還	無傷	
	9 3	A U	—	ウォルター・マーロン	0	5	11	1	准尉	生還	無傷	

☆申請機略号

Su 9…Su-9 I 1 2…I 1-2 m 3 シュツルモビク

☆申請機価格

Su-9…2000 zg I 1 2…700 zg

☆申請機データ修正

I 1 2…最大速度 404 km／時・固定武装23×2+12.7×1+7.6×2・搭載力 600 kg

PCリプレイ

イエール軍の航空傭兵隊のうち、真っ先に派遣された90RWの編隊がタウイタウイ上空に到着したころ、ボートウールのW. ウェイトリーはこちらへやって来る敵編隊をレーダー上に捕らえた。これはイザベリア軍の空母から発進した傭兵隊だったが、そんな事は彼らに知る由もない。長距離空輸飛行の行程の終わりだったから、長々とかかわりあいになっている余裕もない。しかし、彼らはその編隊に向かっていった。すぐそこに補給拠点はある。途中で燃料切れを起こしても、自分たちの陸は真下にあるのだ。

…果たして、賭けは成功した。敵部隊が180°反転したのである。

当座の目的は達成された。すぐにこちらも引き返す。着陸滑走中にフレームアウトを起こす機体が続出する中（何せ大半がF-80である）補給が開始された。敵の第2波攻勢がすぐにかかるだろう。

その第2波攻勢は（実際には第1波だったが）、彼らが予期するよりも早くやってきた。小型のナットが高速で列線に対して銃撃を流す。…しかし逆にこの高速が禍して命中弾は無かった。せいぜいコンクリートの舗装がえぐれた程度である。彼らは一撃を与えただけで引上げ始めた。そうなると今度はこちらの番、補給がそれなりに整っていたものから次々に追撃に入った。…そして、カモがネギを背負って来る場面に遭遇したのである。もっとも、そのチャンスをうまく手にしたものは次の瞬間、引き返してきた一部のナットに喰われていったから、勝負はドローだろう。

やがて、夜陰に乗じて攻撃隊が到着した。早速次の早晩から攻撃作戦は発動されたが、こちらは敵の迎撃力過多のせいであまりよいスタートはきれなかった。一機また一機と落とされるうち、ついに打撃力を維持できなくなり、また潜水艦による攻撃も失敗に終わり、二週間足らずでタウイタウイからの一時撤退が決定された。もともと攻撃隊の参加数が少なかつたことから、ケチはついていた。

南部の対ゲリラ戦はタウイタウイ航空戦に比べれば、ずっと楽なものだった。いきなり活動のもつとも激しい「最前線」に投入されて、基地によってくる連中に手当たり次第投弾すればよかったですからだ。この戦線においても、ジェット機が必ずしも万能であるとは限らないという事が証明された。高速が仇になって、照準が不正確になるのだ。逆にハリケーンは鬼の強さを誇った。機銃掃射時に12門の7.7mm機銃は弾幕効果の面で他を圧倒し、対人攻撃で絶大な威力を發揮した。同じレシプロ機でもコルセアの方は搭載量と航続力ではるかに凌駕していたとしても、小回りと掃射では一世代前のハリケーンに一歩譲るものがあった。一番効率が悪かったのはF-80である。小回り（対地攻撃用としての）は利かない、照準はつけにくい、それでいて高い、等々いい点は見えなかったのだ。せいぜい速いので敵からも撃たれないという程度だった。

次回の作戦

《イザベリア軍》

ガルマン大佐：タウイタウイを失った腹いせからか、このところスル海とセレベス海のイエール寄りでわが国の離島間交易船が海賊行為を受ける事件が多発している。一応名

目上は臨検ということになってはいるがな。わが軍でも連山改を飛ばしたり、水上戦闘艦で警備を強化してはいるが、なかなか完封するところまでは行かない。そこで⑨⑨独飛と⑦②飛戦の諸君たちにも警戒に参加してもらう。彼らはまず偵察機でこちらの艦船の状況を確認した上で、駆逐艦を派遣してくる。従つて、この偵察機を封じればまず半分は目的が達成される。敵の機種はほとんどの場合B-57、時によりB-50だ。高空を飛んでくるから、レシプロ機はやめた方がいいだろう。

⑦①飛戦、⑦②飛戦はラオアグの基地から艦隊の作戦を支援せよ。

さらに、⑦⑨独飛が臨時に編成された。ヘネラルサントスで発生した共産ゲリラを制圧する。小規模だが無視するには忍びない。こっちは⑩機もいれば充分だ。

〈空母アイゼンマオアー〉

ウンケル中佐：ウラジオストクからソ連極東艦隊が出張してくる。こいつらが来ると、いくら米英軍がいるとは言ってもかなり苦しい戦いを強いられることになる。そこで、連中がイザベリア領海に達する前に追い返すことになった。戦艦マラカニアン（大和）と空母ルソン、そしてこのアイゼンマオアーの艦隊が参加する。更に英米軍から各一個空母戦闘艦隊がやって来る。……命中弾が無くても、ソ連艦が引き返せばスコアに爆撃点2点（4p）を加算する。

★部隊編成

〈タウイタウイ〉

独立飛行第⑨⑨中隊〈対空哨戒〉

第1中隊…第1波 第2中隊…第2波 第3中隊…第3波

飛行第⑦①戦隊〈海上哨戒〉

第1中隊…第1波 第2中隊…第2波 第3中隊…第3波

〈ラオアグ〉

飛行第⑦①戦隊〈⑦②飛戦護衛〉

第1中隊…第1波 第2中隊…第2波

飛行第⑦②戦隊〈ソ連艦隊阻止〉

第1中隊…第1波 第2中隊…第2波

〈ヘネラルサントス〉

独立飛行第⑦⑨戦隊〈対ゲリラ戦〉

〈アイゼンマオアー〉

第1飛行隊…艦隊防空 第2飛行隊…第3飛行隊護衛

第3飛行隊…ソ連艦隊阻止

《イエール軍》

オイラーダ佐：ソ連極東艦隊と人民開放軍が援軍にやって来る。我々は彼らが南シナ海を無事通過してくるまで何もできないが、パラワン島のケソンにあるニッケル鉱山を攻撃することでイザベリア軍を牽制する。

★部隊編成

〈バンギ〉

⑨①RW〈基地防空〉

⑨②RW〈⑨③RW護衛〉

⑨①REFS…第1波 ⑨②REFS…第2波 ⑨③REFS…第3波

⑨②RW〈ケソン鉱山攻撃〉

⑨②RAS…第1波 ⑨③RAS…第2波 ⑨④RAS…第3波

〈バンジャルマシン〉

⑨③RW〈ゲリラ制圧〉（上3部隊とは別行動・バンジャルマシンを拠点）

REST TIME

ACT. 24

N O T E

※今回の参加・投稿物・アンケート締切りは6月15日(必着)です。

※WWⅡ期に参加していたプレイヤーは、開始以来の制式機すべて（国籍不問）を、自己申請の手続きで准尉から使用させることができます（ハズなし）。価格は時価ですが、レシプロ機は1000zg以上にはなりません。ジェット機も2000zgを越えることはありません。逆にこれらの機体は、空中分解などの事故を起こす可能性があります。

※制式機について。ミサイルは、搭載数指定がない場合、搭載できません。少なくとも今回は、准尉の機体にミサイル搭載能力を持つものはありませんでした。誤って記入してしまったキャラには、その分の金が払い戻されます。

逆にHVARは目一杯積んでもOKです。（これも近いうち規制を作る予定）

※ミサイルによる戦果のボーナス賞金は、搭載した分だけです。また、HVARによる戦果では、このボーナスは出ません。

第三国の報道

○1958年5月15日の「朝日新聞」：イザベリア政府は昨日夕方、イエール軍がタウイタウイ島から撤退を開始したと発表した。現地駐留のイギリス軍指令部もこの報道を裏付ける発表を行っており、ひとまず世界規模の戦争状態は回避された模様である。なお、イギリス軍及びアメリカ軍は当面のあいだ現状を維持し、情勢を見守りたいとしている。

○同日の「イズベスチア」：クレムリンは同志イエール国軍が、イギリス帝国主義の大であるイザベリア軍の軍事行動によりタウイタウイからの転進を余儀なくされたと発表した。しかし歴史的事実から見て同島は明らかに同志イエール人のものであり、クレムリンは国連総会でイザベリアを激しく非難した。イギリス及びアメリカは、この革命に対する妨害行為を支援する体制を見せている。これに呼応して、ウラジオストックの司令部は同志イエール人たちを支援するため、出動態勢に入った。

Q & A

Q1：オプションのレーダーはどうなったのだろうか？

A1：APS-4なんか、今時つけても何の役にも立ちませんよ！他にポッド装備可能なレーダーはないし。そういう事情です。

Q2：デルタダートってF-106だと思うんですが。（102だってコンベア製だけど）ヴィジランティってA-5のはずだし。

A2：はい。ひつかかったのがまず1人！ヴィジランティは、今の時代はA3Jなのです。A-5になったのは、62年の三軍命名法統一の時から。この辺は気をつけないと、文献を読んでいて混乱をいたします。まあ、102の愛称間違えについて言えた義理でかもしれません。

Q3：そういうえば、イザベリア空母の作戦指令、変じやない？中佐が艦隊攻撃だって言ってるのに部隊編成は基地空襲になってるし。

A3：んがー！ しまった。…今後もこういうケースがあった場合、隊長の言葉が優先されます。今回は全体の装備見て基地攻撃に転換しましたが。

Voice of 参加者

④私は軍事関係などに詳しくない（特にプロペラ機）のでわからない機体が多数ありました。でも、制式機体リストを見て私もこんなのがあったのが思っています。PBMをやりながら知識も増える。一石二鳥のSDですね（笑）

（抜粋・イザベリア・京都府・木村博昭）

⑤…誤った知識がね。資料が不完全だったり、誤植だったりで、結構間違いが多いんですよ。特にこの朝鮮期ってのは、資料的には「暗黒時代」だし。あまり鵜呑みにしない方が身のためではあるでしょう。訂正が頻繁にあるはずなので、注意注意。

しかし、艦載機が零戦のみと言うのは少しばかり辛いような気もしますが。

(イザベリア・東京都・遠藤誠)

③この際、零式戦が艦上機であるという概念は捨てた方がいいかも知れない。既に戦闘機としての働きは期待できないわけだし。WWⅡ期からの参加者の皆さんには、この「発想の切り替え」が、カギでしょう。

④GW明けて、(実家から)MD持ってきました。アドバンスド(大戦略)は現在41年7月1日。スマレンスクです。Ⅲ号G・H型が強くてうれしいわ。

(イザベリア・神奈川県・林孝始)

⑤私は5月14日現在39年10月31日、ビスワ川です。裏技使ってエンディングを出そうとしたらセーブを誤って、まともにトブルクまで行ってたのが見事に消えてしまったのです。あれ、一番のボックスにセーブがかかり易いもんなー。Ⅳ号F2がムチャ強くて楽しかったのに。折角タイガーIもエントリーされたのに。補給車は全部ハーフトラックだったし。まあくよくよしても仕方ないわな。

東部戦線はそれ以前にロストフまで行ったことがあるけど、ソ連軍はオニだね。攻撃機が戦闘機よか強いし、ZisAAがやたら待ち伏せするし、戦車は叩いても叩いてもワラワラわいて出てくるし。ZisAAとT-34の袋叩きに遭った日にや、泣けましたよ。

「Blowers」関係の告知

※9号が6月末に発行されます。いつも通りの300円小為替+175円切手です。なお、スタッフ紹介(親藩篇)が掲載される予定です。

編C 後記

菊: お気付きの向きも多いかと思いますが、SDは前作と比べて、特に空戦において戦果が上がりにくくなっています。この辺も史実を反映させてます。

岬: 今回気をつけて欲しいのは、ペラ機は例え零式戦と言えども戦闘機として見られていない、ということです。下手に安くあげようとすると、やたら死亡率が高くなりますぜ。

笠: いよいよ判なんなくなっていました。WWⅡのだってよく判らなかったのに。助けて!
宇: 「バイク女」に投票してくれた人、あ・り・が・と♡(ウェ)

訂正 & 対策

①機体の値段が高すぎるというクレームがありました。あれは当初、初期状態6000 zg の予定で算定したまま、押せ押せの日程で直すことに気が回らず突っ切ってしまったためです。以下に訂正機を載せます。

ハンター…2900 zg J 29…2950 zg
ランセン…6900 zg バンシー…2800 zg

なお対策として、今回のみ次の特例を施行します。

・一つ上の階級の機体まで、どの機体も無料で入手できる

もちろん国別の制限は受けます。撃墜されない限り、継続使用が可能です。

②各ミサイルの重量などを以下の通り訂正します。

ファイアストリーク…136 kg R 511…180 kg
AGM-12B…259 kg AGM-12D…810 kg

③話がややこしくなりますが、新たに次の機体に、ミサイル搭載能力を付与します。

J 29 F、ランセン…AIM-4系×2 F 9 F-5…AIM-9系×2
ミーティア、ハンター…AIM-9系×2 F-104…AIM-9系×4
MiG-15、17、19…AA-2系×2

④機体名称を訂正します。

・F-102A デルタダート→デルタダガー
・F 8U-2N クルセイダー

※どんなものでも初期はミスが生まれるものです。今回のはチトひどいけどね。どうかご容赦を。特に②③は連休開けになって、図書館OBの松生氏が古本屋で資料を見つけてくれて、初めて正確なデータをつかんだという有様（今までではわずかな写真や文献から類推していた）なので……。

☆アンケート集計

毎回一人は必ずいるのですが、このアンケートと住所録の「関係」についての質問がありました。答えは……「意味はない」です。ただ、単に住所と電話を書かせるだけじゃ能がないし、たまにしかこういう事はやらないのでついでにやってる、だけ。

んじゃ統計結果を。

①「軍歌CD」は、先日菊地がナディアのボーカル集とどっち買うか決めあぐねて、結局こっちを買ったことによるもの。「FSSグッズ」は、新しくFSSファンが来たので、彼のための「踏み絵」企画。「Hな同人誌」はコミケ関係者が入ってきたのでその踏み絵。このテのアンケートは、ある種「究極の選択」的な意味合いがあるので、「番外」という答えは反則ですぜ。で統計は軍歌2:FSS8:同人誌7:棄権4でした。何か知らないうちにファイブスターのファンが多くなってるぞ。

②これは即ち、宇垣（バイク女）と笠原（剣道娘）の人気投票です。バイク5:剣道12:棄権4。大差で笠原の勝ち。わかったか、宇垣？（ホワイ！？：宇）

③今回のメイン質問です。多いところで全部（某PBMマスター）、少ないのは7（某埼玉県民）。少ないからって気にする必要はありません。この時期の機体は図鑑等でも冷遇されてますから（しかし何でだ!?）、知らない方が普通です。

④平均7万円。ただし既に就職している人の分も含まれているので、これを抜くと平均で2万円弱。これは、将来的に空技商品の価格設定の参考にするものです。

⑤GD……ゼネラル・ダイナミクス（F-16のメーカー）は普通。グロス・ドイチュラント師団（ナチ・ドイツ軍）はちょっとマニア、Gods of Death（PBM）は関係者のみ、といったところでしょう。ほかに金貨（FRPG系だね）、GunDam（考えすぎ）、Galactic Destroyer（無理に造ってない？）。これは↑PBM参加者のための「踏み絵」企画です。

※今後もこの種の「踏み絵」企画はネタが見つかり次第やりたいので、心当たりのある人は積極的に参加するやうに。

写真販売

厚木祭の時の写真が上がりました。大変なアクシデントがあつて、マス・フライバイやF-14やU-2の大写しなど、滅多に撮れない絵がほとんどパアになつてしましました。満足な構図のものがわりとあったのですが……。

で今回はセット売りはやりません。売りに出せるもののリストを以下に示しますので、2枚以上のお好みの組み合わせにして注文して下さい。

F-2 J一機正面 US-1一機横半影 YS-11 (M?) 一機横全影
F-4 EJ (改?) (以上自衛隊機)
SH-60一機横全影 F/A-18C二機斜め全影 同一機正面
F-14 A一機機首横アップ OA-4 (M?) 一機全影
キングエア一機全影
インディ搭載機マス・フライバイ (F-14、-18、A-6、EA-6B
S-3、E-2)

全体にピントが甘いですが、A-4は今回のお勧めです。けつこう攻撃的なイメージを強調できたと思います。逆にマス・フライバイはあまりお勧めできません。機体が小っちゃくて。200mm望遠使っても、そう効果がありませんでした。構図も悪いし。これ以外は全て28mmの広角レンズが使われています。次回結果発送時に同封します。1枚30円です。切手で釣銭の出ないように送金して下さい。10円未満の釣銭は絶対扱いません。また、この場合、郵便代は250円になります。要注意。

夏合宿の話

調査の結果、予定としては次の通りになりました。

予定日 8月8～9日または23～4日 場所 箱根強羅温泉（湯本の可能性もあり）

宿 未定（交渉中） 宿泊費 一泊二食付き2万円強

参加者 戸島基貴 林孝始 古橋道生 村松雅和 以上4氏敬称略

これで箱根関連の募集は締め切ります。お騒がせいたしました。

なお最近、主催者の両親がヒステリーから経済制裁を開始したため、ぎりぎりになって中止される恐れもあります。この場合、冬休み中に延期されることになるでしょう。

住民投票

今回は今後の展開にかかる、極めて重要なアンケートです。内容は、

- ① 日本国憲法第9条の廃止に賛成か反対か
- ② ①に賛成の場合、自衛隊のイザベリア展開を認めるか否か
- ③ 日本の武器輸出を認めるか否か

以上3点、もちろん全てゲームの世界内に限定したことです。私たちはあなたの答がどうあれ、それをとやかく言いはしませんし、まして外部に漏らしたりもしません。そんな事じやこの仕事はやってられないし。もっとも、回答率がやたらに低ければ、それはそれで文句タレるかも知れませんけどね。

なお、次の点でゲーム世界と現実の日本史は異なっています。

- i GHQ司令は一貫してニミツ元帥だった。
 - ii 「北方領土」はすべて日本領のまま。ただし樺太はソ連領。
 - iii 沖縄戦はなかった。
 - iv 原爆は一切投下されていない。
- これらは、
- i イザベリア＝フィリピン（地理上）で、マッカーサーが存在する余地がない
 - ii iii iv 日本が1945年3月で降服したため、事態がそこまで進まなかつたという理由によるものです。

最低限、①には理由もつけて欲しいですね。ただし、そこらの「平和団体」がお題目にしているような当たり前すぎる理由（“低次元”とか、そういう意味じゃないよ。こう書いてもそう思い込む人はいると思うけど）であれば、逆に書かなくてけっこうです。こちらもそういう事は了解した上でやっていますので。

言ってみればこれは一種のディベートなので、お互いの政治思想とか、そういう背景については一切無視しましょう。それが礼儀です。

固い話になりましたが、根底にあるのは「プレイヤーのシナリオへの参加」なので、気楽に、肩の力を抜いてやりましょ。質問については電話でも受け付けます。木曜日なら夜7時ごろから家にいます。

回答期限は長めにとって、第26回の締切りまでとします。早く決まった人は今回の参加でもいいし、ゆっくり考えたい人は次回の参加時に同封して下さい。よろしく。

榛名とはるな

本居こじ・作

ACT. 9 All Boats Away! (Sec. 2)

はるなが迎撃のために対空ミサイルを満載して離陸したころは、MA(陸上)班の対空ミサイル部隊がありったけの長距離対空ミサイルを射ち上げている最中だった。男子部の艦載機が早くも肉薄してきていたのだ。

離陸するなり、はるなのF-15Jのレーダースコープを男子部の放った対空ミサイルが埋め尽くした。電子妨害かと思ってECCMを入れたが、何も変わらない。F-15のECCMはあくまで補助的なものなので何とも言えないが、とにかく敵の第一手は把握した。——距離から見て多分フェニックスAAM、従って母機は十中八九F-14ということになる。電子装備の交換でどんな機も何でも積めるが、そんな面倒なことをやる者は滅多にいない。

「……まいった」彼女は唸った。「やなのに当っちゃったなあ……」

どう考えても、今ここでは一機たりとも失うわけには行かないのだった。しかし、彼女の心理は先日のF-14ショックが強烈に支配していた。あれだけあっさり落とされたのは、彼女にとって生まれて初めてのことだったのだ。

彼女の仲間の三機のF-15、そして配下に置かれた各四機ずつ合計十二機のF-4E、F-20、クフィルC2が寄り集まっているのがバックミラーに映る。——すぐに前部キャノピーの縁の方で、遠くのミサイルがキラリと光った。

来た——!!

まったく突然に、はるなは閃いた。それは効果的な戦法だったが、同時に致命的に危険な賭けでもあった。だが、選択の余地はなかった。オール・オア・ナッシング。彼女は余裕を装って告げた。

「みんな、私がこれから言うとおりに動いて。でないと全滅すっから。——全滅したら、あとでコタツよ」

コタツ。袋叩きである。集団であったるので、そう言う。隠語である。

戦闘機隊より後方で旋回していた一機のE-3Aセントリーのレーダーオペレーターの一人は、スクリーン上の光影に口笛を吹きかけた。女子部の迎撃機が十六機、回避行動もとらずに真正面から味方のミサイルへ突っ込んで行くではないか。——しかし、彼は口笛は鳴らせなかった。予想に反して、女子部は全機ミサイル群を突き抜けたのである。

「何だ、こりゃあ！」思わず彼は口走り、他のオペレーターの注目を集めた。「迎撃失敗！女子部迎撃機16機、突っ込んでくる！編成はF-15その他各種、細部は不明!!」

その時のはるなたちは、フラップはもとより脚まで全部下げて速度を抑えていた。じりじりと迫る長射程対空ミサイルの到達タイミングを心でカウントダウンし、最後には声に出した。

「……3、2、1、そら行けっ——！」

瞬間、多少バラつきながらも十六機の戦闘機はズーム上昇を開始した。垂直上昇である。奇跡が起きた。

ミサイルのレーダーは、到達寸前の目標の急激な動きに対応できなかった。再び目標を発見することなくミサイルは敵機の下を抜け、そして燃料が尽き、自爆した。

F-4Eの後席に乗る赤城率いる戦闘機隊も、E-3のレーダー員同様狼狽していた。

彼らはみなF-4Eを使っていて、電子装備をF-14Dのものに換装していた。ミサイルで敵編隊の大部分を撃滅できれば、あとはたとえ鈍重なF-4でも数で圧倒できると踏んだからである。F-14やF-15といった一流機は、万が一のために本拠地に残しておく必要があった。——しかし、彼らの目論見は崩れた。女子部の迎撃機は、こと

もうろうに全機ミサイルをかわした。機数はこちらより多い。こちらは12機である。おまけに敵はF-15を装備ときた。……編隊指揮を統括する赤城は、文字通り頭を抱えた。そこへ追い討ちをかけるように、E-3から通信が入った。

「女子部がミサイルを発射。スパローらしい。16発……30秒で来る！」

「20秒後にチャフをまけ！」赤城はとりあえず命じた。「隊形を崩すな！」

レーダースコープ上の輝点の数が、倍になっていた。手前の群れがミサイルに違いない。——SAMが来ないのが不思議と言えば不思議だった。低空を行く爆装機を集中的に狙っているのかも知れない。

機体が急に横転した。パイロットの加賀が回避行動に移ったのだ。

「チャフはどうした！」赤城は言った。「まだまいてないだろ、お前！」

「うるせー！」左方が手取り早い！」「黙つてろ、気が散る！」加賀が怒鳴り返す。

「……ああ、そうかい」赤城が静かに答える。「じゃ、俺がやる」

「バカ、よせ！」

加賀が言って止めようとしたが、用をなさなかった。チャフディスペンサーからいくらかのアルミ箔がまき散らされる。後方警戒レーダーが使用不能になった。彼が唸る。

「……タコ、後ろどうする気だ!?」

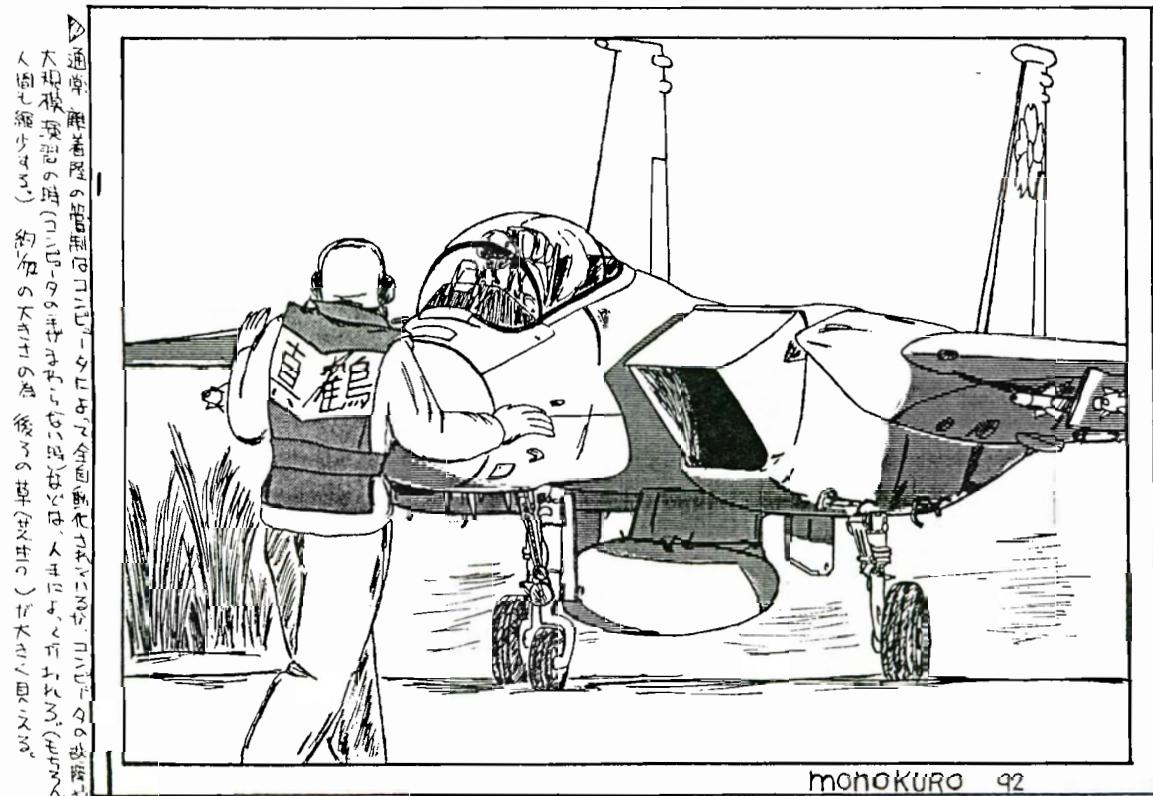
彼は、一端ミサイルに背を向けようとしていたのだ。

「バックミラーと勘だけでどーやいっちゃんじや……」

「じゃ、早く機首戻せ！」

「できっかよ、余計餌食になっちまわあ」加賀は慌ただしくミラーに目を走らせた。「来た！何もいじらなよ！」

風景がぐるりと回って二人に床方向へのGがのしかかった。赤城の席からも一瞬ながら、追尾してくるスパローミサイルが目に入る。加賀はF-4を可能な限り小半径の宙返りにいた。そして円弧の頂点に達したとき、急にひねりこんでコースをずらし、急降下に移った。ついで再び急上昇に入る。



「ムチャクチャだ！」

赤城が悲鳴を上げるや否や、ミサイルが折れて爆発した。衝撃波で機体があおられる。

「ハハハ、見たか」加賀が得意がる。「ミサイルは細っこいから横Gに弱い」

「大方誘導装置が酔ったんだろうさ」赤城は皮肉った。

それまでに、4機のF-4が落とされた。

間もなく格闘戦が始まった。数に勝り戦力に勝る女子部軍を前に、加賀たちは出だしから苦戦を強いられた。

敵機がF-4であることを認めると、はるなはがぜん活気付いた。はじめは目を疑ったが、その鈍重なスタイルは見間違えようがない。彼女は僚機に二機ずつペアで当たるように告げると、予定通り扶桑を伴いバーナー全開で男子部編隊のまっ只中に突っ込んだ。敵を搔き回してこちらに有利に持ち込むためである。——呆氣無く一機が血祭りに上がる。動搖した男子部の、かなり長い一瞬のスキを狙って、長門が号令をかけた。残る女子部の編隊が男子部の編隊に穴を開ける。

加賀は不利な空戦を避け、F-20のグループを狙った。マッハ2級、スパロー搭載能力を持つとは言え基本的にF-5を基本とする軽戦で、F-4の敵ではない……はずだった。ただ、彼らが目標を見た瞬間に失念していたことがあった。

他の者も同じことを考えたのである。

十数人のF-4パイロットは、それに気付くとめいめいが目標を変更した。皆がそれぞれ他に獲物を譲ったのだ。

「バカか、あいつら」ただ一機針路を維持していた加賀は、思わず彼らを見送っていた。

「やめろ、自殺行為だ！」

「よせ、間に合わん」赤城は無線スイッチを切った。「それより前見てろよ」

不承不承彼は口をつぐみ、再び前方のF-20を追尾し始めた。後方に別のF-20がついてサイドワインダーを発射したが、即座に機体を沈めて飛来した弾体をかわした。機動で速度が死に、後ろの機体が加賀たちの前へ飛び出す。相手に回避する間も与えずにバルカン砲で20ミリ弾を腹部へ叩き込む。破片を避けて左へ横転しながら上昇し周りを見回すと、今まで追っていたF-20が爆発した。どうやら今のミサイルに食われたらしい。

「くわばらくわばら……」

獲物を求めて更にあたりを見回した。……乱戦になっていた。どれが誰の機体かわからない。ただ、雰囲気として男子部が極めて劣勢にあるのだけは確実なようだった。

「やあ～ばいな……」

加賀がボソリとひとりごちた途端、後方警戒装置が作動した。

「六時方向に敵機！」赤城が怒鳴る。「おわ、ハルだ！ F-15っ！」

「だア！」

加賀は反射的に方向舵ペダルを蹴り飛ばし、操縦桿を同じ方へひっぱたいた。F-4とF-15では、まともな空戦は望めない。「姑息な手段」が必要だった。

はるなは急に急降下に入って暴れるF-15を抑えるのに四苦八苦した。F-4よりエンジン推力は高く自重の軽いF-15は、ちょっとしたバランスの崩れでとんでもない動きをすることがある。環境変化に敏感なMF機ではなおさらである。……ちらりとバックアップ機の扶桑の方に目をやると、そちらははるかに安定しているようだった。ミサイルが使えれば苦はないのだが、まず地表の赤外線反射でサイドワインダーが使いものにならない。そして誘導電波が乱反射するのでスパローもアテにならない。要するに使える武器は右翼つけ根のバルカン砲だけなのだった。

(ACT. 9 続)

